

# AMDA News Letter

Association of Medical Doctors for Asia

アジア医師連絡協議会

VoL.15 No.7 7月号

1992年7月15日

編集責任者:山本秀樹/津曲兼司

事務局 岡山市橋津310の1(内田)

菅波内科医院

(TEL)0862-84-7676

(FAX)0862-84-7645



バングラデッシュNGOビューローにてNGO登録をする。

左より、岩永氏、藤井氏、大野氏(以上AMDA)

Mr. Faizullah(chairman, Land Reform Board)

## 主要トピック

アジア多国籍医師団準備委員会報告(6)

なぜ今NGO(国際民間協力団体)なのか(菅波茂先生)

カンボジア難民帰還支援緊急対応医療プロジェクト(桑山紀彦先生)

ミャンマー難民医療緊急救援プロジェクト(長谷川昭一先生)

ブータン難民医療緊急救援プロジェクト(大野京子/藤井美紀子氏)

東北タイ農村開発計画支援プロジェクト(2)(菅波茂先生)

タイ農村部の医薬事情-村の薬生協を中心に(奥田朗先生)

国際医療情報センター便り(小林米幸先生/香取美恵子氏)

岩手便り(3)(岩井くに先生)

郵政省国際ボランティア貯金配分決定

事務局便り(山本秀樹先生/津曲兼司先生)

# アジア医師連絡協議会

## ご案内

(理念) Better Medicine for Better Future in Asia

(沿革) 1979年タイ国にあるカオイダンのカンボジア難民キャンプにかけつけた1名の医師と2名の医学生の活動から始まっています。

(現状) アジアの参加国は13カ国。会員数は日本が200名でアジア各国の総数400名。アジア各地で種々のプロジェクト、フォーラム等を実施中。

(本部) 岡山市橋津310-1菅波内科医院(電)0862-84-7676(Fax)0862-84-7645

## プロジェクト紹介 (参加希望者は本部までご連絡ください)

(国内)

### 在日外国人医療プロジェクト

1991年4月17日にAMDA国際医療情報センターを設立。在日外国人をはじめとする関係者からの医療に関する電話相談、受け入れ医療機関の紹介、シンポジウム、セミナーの開催などを行なっています。

(海外)

### カンボジア難民本国帰還緊急対応医療プロジェクト

1992年7月よりタイから帰還するカンボジア難民対応した緊急医療活動をAMDA-Japanの指導下を実施中。

### ミャンマー難民緊急救援医療プロジェクト

1992年3月より、バングラデッシュに流入しているミャンマー難民にAMDA-Bangladeshを中心にAMDA-JapanとAMDA-Nepalの3カ国が国際合同緊急救援活動を実施中。

### ブータン難民緊急救援医療プロジェクト

1992年6月より、ネパールに流入しているブータン難民にAMDA-Nepalを主体にAMDA-Japan,の2カ国が国際合同緊急救援活動を実施中。

### ピナツボ火山噴火被災民救援プロジェクト

1991年11月より、フィリピン支部のルソン島ピナツボ火山噴火被災民キャンプ医療活動へ医薬品援助と共に医師およびヘルスワーカーを派遣。

### ネパール王国ビスヌ村地域医療プロジェクト

1991年7月から、ネパール支部のビスヌ村農村の地域医療推進活動へ医療用ジープ寄贈とともに医師等を派遣。AMDAネパールクリニック開設。

### インド連邦カルナタカ州無医地区巡回診療プロジェクト

1988年9月より、インド支部のカルナタカ州でアユルベーダ医学を用いた農村無料巡回診療を支援。

### アジア多国籍医師団構想

1993年5月に創設/展開予定。アジアの自然災害や難民等の緊急時に瞬敏に対応できる全支部(13カ国)から構成されるアジア多国籍医師団設立予定。

## 連絡先と役員 (AMDA日本支部)

701-12 岡山市栢津310-1 菅波内科医院内 アジア医師連絡協議会  
(Tel)0862-84-7676 (Fax)0862-84-7645

役員	代表	菅波茂 (菅波内科医院)
	副代表	小林米幸 (小林国際クリニック) 国井修 (国保栗山診療所)
	プロジェクト実行委員長	中西泉 (町谷原病院)
	カンボジアプロジェクト委員長	桑山紀彦 (山形大学精神科)
	伝統医学プロジェクト委員長	朔元洋 (さく病院)
	事務局長	山本秀樹 (岡山大学公衆衛生学教室)
	事務局次長	津曲兼司 (菅波内科医院)
	事務局補佐	岩永資隆 (菅波内科医院)
	事務局	岡崎清子 (非常勤)

### (AMDA国際医療情報センター)

154 東京都世田谷区新町2-7-1 横尾ビル201  
(Tel)03-3706-4243,7574 (Fax)03-3706-4420

役員	所長	小林米幸 (小林国際クリニック)
	副所長	中西泉 (町谷原病院)
	事務局	香取美恵子 / 田中理恵子 (常勤) 後藤朋子 (非常勤)

## AMDA支部

日本、韓国、台湾、香港、フィリピン、インドネシア、タイ、マレーシア、シンガポール、インド、バングラデッシュ、ネパール、スリランカ、パキスタン (近日中参加予定)

## 入会方法

郵便振替用紙にて所定の年会費を納入してください。入会金はありません。

- 正会員 10000円 (医師に限る)
- 準会員 5000円 (医師以外の社会人の方)
- 学生会員 3000円 (学生に限ります)

ただし、会計年度は4月～翌年3月です。入会の月より会報を送付致します。

振替先：郵便振替口座「アジア医師連絡協議会：岡山5-40709」

なお、会費と共にAMDAプロジェクトのためにカンパをお寄せになる方は振替用紙の通信欄に「000プロジェクトのために」などのご記入ください。

### AMDA活動に関するビデオテープお分けします (1本3000円)

- 1) AMDA在日外国人医療プロジェクト (AMDA国際医療情報センター)
- 2) AMDAネパールヘルスクリニック開設
- 3) AMDAミャンマー難民支援医療プロジェクト
- 4) ダイジェスト版 (上記の3プロジェクト)

ご希望のビデオNoと現金を現金書留で下記にお送りください。

242神奈川県大和市西鶴間3-5-6-110 小林国際クリニック 小林米幸

## なぜNGO（国際民間協力団体）なのか（1）

アジア医師連絡協議会  
代表 菅波茂

今、新聞を開けば「難民」に関する記事の載らない日はありません。私達アジア医師連絡協議会（AMDA）はアジア13カ国に支部があり約400名の会員からなる団体です。アジアのより良き医療、より良き将来という理念のもとに力を合わせて頑張っています。難民に対する活動としてバングラデシュのミャンマー難民、ネパールのブータン難民そしてカンボジア難民本国帰還の医療支援プロジェクトを実施しています。その前はイランのクルド難民医療支援プロジェクトを実施しました。

難民とは何か。簡単に言えば「パスポートを持ってない人達」です。パスポートには「このパスポートを有する人に保護を与えてくれるよう国家として願います。」と記載されています。国家は税金を払っている国民のために国益を追及します。パスポートはその象徴といえます。

難民支援を行なっている私達はNGOです。NGOとは Non-Governmental Organization の略語です。直訳では非政府組織ですが、いわゆる国際民間協力団体のことです。国家も当然国益のために難民支援プロジェクトを実施いたします。では、同じようにみえる難民支援プロジェクトを実施している国家と国際民間協力団体との違いはどこにあるのでしょうか。国家による難民支援プロジェクトは豊富な情報、資金及びマンパワーを駆使したスケールの大きな展開が可能です。国際民間協力団体はあくまで「お互いの顔が見える範囲」のスケールが特徴です。しかし、それ以上に決定的な違いがあります。それは下記の3点に要約されます。

- 1) 国際民間協力団体は国家間の正式な外交関係の無い時にも行動できる。
- 2) 国際民間協力団体は複数の国家に所属する人達で構成できる。
- 3) 国際民間協力団体は国益でなく人道的立場から行動できる。

国際民間協力団体は原則として非政治的です。その非政治性が国家間の政治的問題を解決する時に究極の政治性を発揮するというパラドックスがあります。地域的な紛争に伴う国交断絶を常に繰り返してきている欧米の国々はこのパラドックスを良く理解しており自国の国際協力民間団体を積極的に支援しています。

代表的な例として「国際赤十字社」をあげることができます。クリミア戦争における敵味方の隔たり無く負傷者の看護にあたった英国のナイチンゲールの活動が発端です。現在では世界中にネットワークをもった国際民間協力団体として各国に支部を持ち人道的な立場から国家間を越えて活動しています。逆に、解決しなければいけない問題をかかえた当事国が国家間の正式な国交が無くて困っている場合に「国際赤十字社」に橋渡しを依頼することがよく見られます。

我が国の国際民間協力団体に対する官民の認識の差が郵政省「国際ボランティア貯金」と外務省「国際開発協力関係民間公益団体補助金」において具体的な数字でみることが出来ます。

郵便局の国際ボランティア貯金は通常貯金の受取利子の20%を開発途上国/地域で活動する日本の国際民間協力団体に寄付する趣旨です。昨年の開始以来33億3千万の実績です。郵便貯金の利用者は主に庶民です。

一方、外務省の「国際開発協力関係民間公益団体補助金」としてODAから国際民間協力団体育成/支援に使用された金額は昨年より約5億円です。この金額の差は余りにも大きすぎます。

国際貢献が叫ばれている昨今ですが、外交のプロである外務省の国際民間協力団体に対する評価は低く、声無き庶民の国際民間協力団体に対する期待は高いという数字です。これは民間からの「国家としての国際貢献」だけでは不安であるという一種の世論です。即ち、国際民間協力団体の存在は「国家生存の保険あるいは保障」ということでしょうか。

民間のほうが官より先に欧米の国際民間協力団体に対する感覚が芽生えてきているのかも知れません。

現在、日本には小規模ながら将来性および独自性のある国際民間協力団体が1979年のカンボジア難民を境にして勢いよく育ってきています。その数は約200団体です。「教育は百年の計」と言いますが、国際民間協力団体の育成を10年の計として官民共に真剣に考える必要があると思います。

10年後の「国際民間協力団体大国」という夢はいかがでしょうか。

1992年(平成4年)7月3日(金曜日)

## オピニオン ワイド

毎日新聞

(第3種郵便物認可)

アジア医師連絡協議会代表 菅波 茂

「外国の非政府組織(NGO)が活動の許可を得るとすれば一、二年かかるのに僕たちはわずか一時間で許可された。バングラデシュに流入したミャンマー難民に対し、我々が今年四月派遣した緊急救護二方面日本、ネパール、バングラデシュ合同医師団のリターマデバングラデシュ人のサルタルナイム医師はうれしそうに話した。彼の喜びは二つのことを示唆している。

開発途上国が抱えた難民の医療はこれまで、経済的に恵まれた国の医師が行うことが当たり前とされてきた。しかし、開発途上国にも多くの医師



### 医療貢献は現地医師と信頼関係で

がおり、機会さえあれば、難民のための医療に従事したいという気持ちを持つている。今回の緊急援助はこうした医師が中心になった。また援助を受ける国も必ずしも好んで外国人のNGOを受け入れていたのではないという事実も、許可に必要な時間の対比が雄弁に物語った。

アジア医師連絡協議会(AMDA)は一九七九年、タイ国内のカンボジア難民キャンプに駆けつけた二人の医師と三人の医学生活動から生まれたNGO。三人の日本人が現地で感じ、たのはアジアのより良き医療、より良き将来だった。以後、相互の理解、支援、幸福を目標にアジアの志を同じくする医師

らとさまざまなプロジェクト、フォーラムを積み重ね、会員は現在十二カ国、四百人、日本人二百人になった。今回の緊急合同医師団は、AMDAのこうした実績を踏まえ、アジア多国籍医師団設立構想の一環として組織された。構想の理念は自然災害や難民に対する国際緊急医療のアジアの多国籍性(多言語、多文化、多宗教)に応じた医療。①アジアからの参加国医師による平等な貢献一

一が柱。今年はいソット・フロシエトとして先のミャンマー難民医療をはじめカンボジア本国に派遣した難民、ネパールに流入したアトタ、難民への医療を実施、これを足掛かりに来年五月、アジア多国籍医師団を正式な活動プロジェクトとして実現したいと考えている。そのために今後、妻子を抱えた医師の生活保障をどうするかを協議すべき大きな課題になる。NGOには慣れぬこのイメージがあるが、問題の解決方法を持ったプロフェッショナルな組織への発展が必要ではないか。ハイテク技術を持った企業とも協力し合うケースも考えられる。国連平和維持活動(PKO)論議の中で、「国際貢献」のあり方がクローズアップされている。我々が考えるのは、アジアの医師らと二種片をかく信頼関係の確立と、その具体的な実現である。

私見 直言

# 被災者、難民の医療奉仕

## 農業技術指導やヤギ貸与

### スラム街に学校建設

# 活発な民間の国際貢献

県下

国連平和維持活動(PKO)協力法が、七月の参院選の大きな争点として浮上するなど、国際貢献の在り方をめぐる議論が高まる中で、県内に拠点を置く民間海外援助団体(NGO)非政府組織の活動が目ざれている。現地の実情に合った、草の根、活動を身軽に展開できるのが特徴で、既に十年以上前から医療、教育、農業などの分野で活発な国際貢献を続けている。県下のNGOの活躍ぶりと課題を探った。

岡山市内に本部を置く「AMDA(アジア医師連絡協議会)」。アジア十三カ国の医療関係者四百人で構成し、フィリピン・ヒナトゥボ火山被災者をはじめ、湾岸戦争によるクルド難民や、ネパール、内戦のあったエチオピアなどで診療を行っている。

## 25団体が草の根活動 資金、情報基地作り急務

### 資金、情報基地作り急務

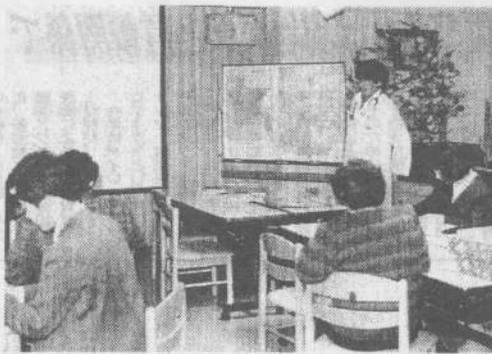
今年四月上旬には約半年間の予定で、バンクワデシユへ医療チームを派遣する。「カンボジアでは全世日本、バンクワデシユ、ネパール」の医師が協力し、二、三週間だけをした患者の診療を「AMDA」に依頼する。今年四月には約半年間の予定で、バンクワデシユへ医療チームを派遣する。「カンボジアでは全世日本、バンクワデシユ、ネパール」の医師が協力し、二、三週間だけをした患者の診療を「AMDA」に依頼する。

「現地の事情」詳細に元医師も参加し、その限りでなく継続した診療、衛生体制を整えたい」と菅波茂・AMDA代表はいつ。

「このほか、岡山市出石町の店舗で、東南アジアからの手工芸品など売る「コックン古都夢」は、経費を除く売上金を、各国NGOに資金協力する公益信託アシア・コミュニティ・トラスト(事務局東京)などを通して活動している。

「AMDA」は、緊急支援が必要な災害援助、難民救済に対応するには、「すぐ動ける資金確保が必要」を「ネットワーク代表は説明する。AMDAのように、緊急支援が必要な災害援助、難民救済に対応するには、「すぐ動ける資金確保が必要」を「ネットワーク代表は説明する。

「このほか、岡山市出石町の店舗で、東南アジアからの手工芸品など売る「コックン古都夢」は、経費を除く売上金を、各国NGOに資金協力する公益信託アシア・コミュニティ・トラスト(事務局東京)などを通して活動している。



ミャンマー難民の医療援助を終えて帰国した医師らによるAMDAの報告会=岡山市内



# カンボジア難民本国帰還救援医療プロジェクト

AMDA カンボジア担当 桑山紀彦

今回の調査においてまず感じたことを報告する。

- ①カンボジアはかつてないほどのNGOが入っており、プノンペンを中心としたカンダール県だけでも約100のNGOが活動を始めている。従って各NGOは仕事の取り合いを始めたりしており、現時点での新プロジェクト起こしは大変困難である。
- ②その100を越えるNGOの中で保健関係の活動を行っているNGOは約75（カンダール県だけで）。事実、日本の「青年海外協力隊」も仕事がなかなか見つからず、どこかのNGOに人と金を出して「使ってもらおう」といった状況になっている。
- ③外務省も保健省もこのことに困惑し、早くもNGOの交通整理や活動開始について制限を始めている。

このような状況の中で以下のプロジェクトを打ち上げてきたが、現時点においてはNo. 1、No. 2が有望である。

## 「プロジェクトNo. 1」

・・・UNHCRとの合弁プロジェクト・・・帰還民のモニタリング

これはJVCのOBで、現在UNHCRプノンペン事務所の Protect officer である税田（さいた）さんとの接触で、ほぼ実現可能になったものである。

帰還民はプノンペンを中心とした南東部にも帰ってきており、プノンペン郊外にも Reception センター（以下”Rセンター”）が一つある。現在一日約800人の帰還民が帰ってきているが（この南東部のみで）、当初南東部は一日約2500人という計画だったので、いかに本国帰還が遅れているか分かる。しかも6月1日にSNC（最高民族会議）がHCRに対し「彼らは難民を連れてきては、ゴミのように捨てている」と公式に非難したため、HCRとしても「再定住した”後”」のフォローの必要性を認識されたようであり、AMDAとの合同プロジェクトとなったものである。内容は、

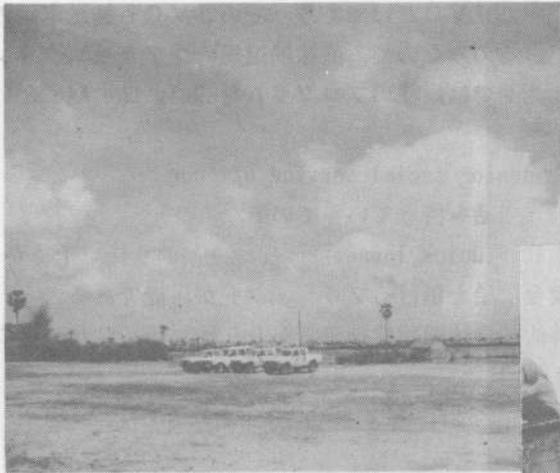
①Rセンターを3日足らずで出た後、帰還民は再定住地に住む。そして以降40日毎に食糧の配給をHCRよりうける。これは各村落の Distribution point と呼ばれる場所で行われ、この時だけがHCRと帰還民が接触する唯一の場所と時間である。

②AMDAはそこに車と人を出し、HCRと共にモニタリングを始める。場所はコンボンスプー県とタケオ県

③内容は、・簡単な健康診断 ・周囲の村民との関係はどうか ・再定住地に満足しているか ・EVI (Especially Vulnerable Individuals)の人々のその後の経過はどうか（亡くなったりしていないか）・・・HCRは実はこのEVIの状態を非常に気にしている。EVIは本来ならば帰還が不可能と思われる社会的弱者であるので、SNCなどに「ゴミのように捨てている」と言われる由縁を作りたくないのだと思われる。EVIは南東部だけで4000人近い。

・いったいどれくらい食糧配給を受けに来るのか（実はある地域では定住したはずの地域に誰もいなくなり、ほとんどどこか別の地域に去ってしまったケースも多い。予想では50%の帰還民がその時、その場所に現れるならいい方だという見方もある）。

Distribution Pointは、南東部だけでも120箇所あり、コンボンスプーと、タケオについては合計20箇所ほどになる。



国境から帰還民を乗せた列車が、野原のまん中に着く。CAREのトラックが出迎える。



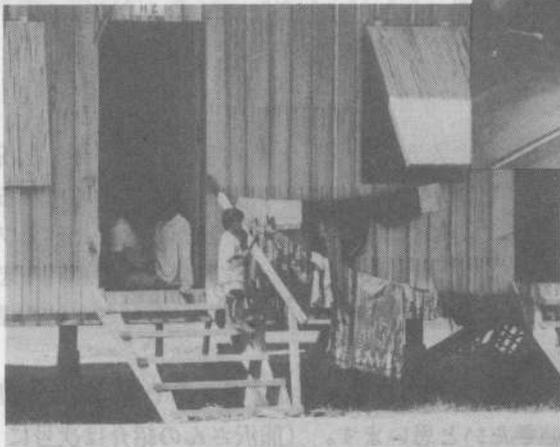
貨車にまで人が乗っている。(帰還民)



Reception Center 2,000人収容可。  
ここまでは配給を受けられる。



Reception Centerの食事はCRC (Cambodian Red Cross) がつくる。



Reception Center 一家に8畳一棟のみ。

- ④HCRと一緒に仕事をしているのは日本のNGOではJVCだけであり、そのJVCも輸送車両のメンテナンスを受け持つといったことで関与しているのみなので、直接帰還民のケアとモニタリングを行うのはAMDAのみということになる。北西部では同様のプログラムを Help the Age というNGOが行っている。
- ⑤直接の officer は Protect の税田さんではなく senior social service officer の Mrs. Jeniffar である。彼女とはもはや契約寸前まで話を持っていつている。
- ⑥この内容のプロジェクトであればHCRからQIPs (Quick Impact Programs) という枠で予算がつくであろうとの事。JVCに次ぐHCRより資金供給を頂けるプロジェクトが可能である。  
 ・・・・このプロジェクトは帰還民の社会的、精神的、身体的状態調査であり、絶対手放せないプロジェクトと思われる。

### 「プロジェクト No. 2」

Concern (コンサーン) との合同プロジェクト・・・コンボンスプー県における、国内避難民、帰還民及びその周辺住民に対する緊急医療及びワクチン接種 (予防医療的側面含む)

①コンサーンはアイルランドのNGOで、カンボジア事務所の所長ドミニク氏とはアランヤブラテートで面識がある人物である。コンサーンは昨年よりブリーダさんという女性 (助産婦) を中心にコンボンスプー県で幅広く緊急対応医療や予防接種、時には橋の掛け替えなども手伝ってきている。緊急患者は県病院に運び込んでいるが、県病院は現在ARC (American Red Cross) がフルサポートしている。ブリーダは熱心に現場の需要を把握し、決して過剰な援助をし過ぎないように見極めながらサポートを続けている。そのためどのNGOでも彼女の評価はすばらしく高い。しかし残念なことにこの8月末まででプロジェクト費が終わり、現在次のドナーが見つけれないでいる。そこで、AMDAとして医師か看護婦を彼女のもとに送り、2人でコンボンスプーを中心に幅広く緊急対応医療や予防医療、現地におけるスタッフ育成などを行っていけると思われる。

②決してAMDAがコンサーンに資金援助のみを行うという意味ではなく、AMDAからも人を出して、共同でプロジェクトを運営するという方針である。

③全く”1”から緊急対応医療やPHCを行うのはもはやこれ程までにNGOが入っている状況の中では不可能といってよい状況である。したがって、これまで実績のあるNGOとカウンター・パートナーシップをとって共に活動を広げていけばAMDAにとっても勉強になるし、優れた経験を積むよい機会となると思われる。コンサーンは難民救援では世界中に知られた団体であり、来年度の全世界活動拠点の活動資金総額は日本円で10億円を越えているといわれている。そのような団体と胸を合わせて活動できる機会を逃す手はないと思われてならない。

おわりに・・・ (AMDA会員の皆様へ)

余りに多くのNGOが入り、青年海外協力隊まで「仕事なんか無いよ」と言われている昨今の状況の中で、カンボジアにおけるAMDAは全く無名です。これからAMDAが大きくなっていくのならば、やはり確実で、現地に迷惑のかからない方法を取っていくのが結局は早道だと思います。例えばプロジェクトが地味なものであっても、NGOは私たちだけではないので、様々な方向からの意見や忠告も聞かねばなりません。いまはこの2つを現実に代えて、少しづつ力をつけていきたいと願うばかりです。

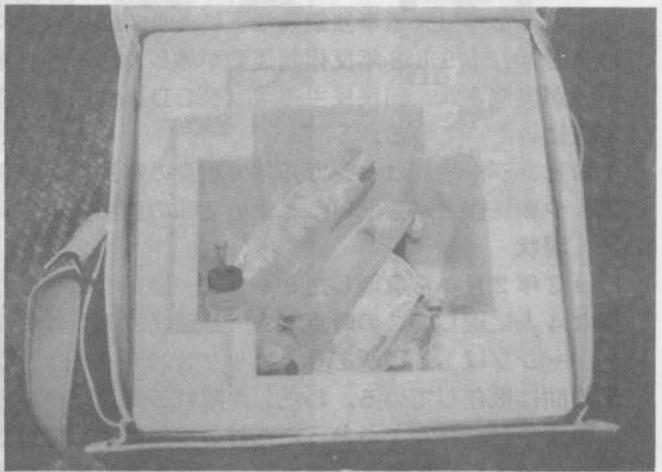
7月4日より熊沢ゆりさんを現地に送りました。AMDA初の日本人専従アドミニです。彼女が動きやすい環境作りをAMDA Japan として心がけていきたいと思っています。(熊沢さんの紹介は次号にて)



カンダール郡のHp、ワクチン接種。



コ・トム郡HpのTbc患者、かなり急性期。



電気も冷蔵庫もないので、氷で冷やしたワクチン。



帰還民はあくまで配給に頼ってしまう。



再定住した帰還民は、むこう一年間40日ごとに配給物資を受けとる。そのDistribution Point。

# ミャンマー難民医療緊急救援プロジェクト

長谷川昭一先生

## 1. はじめに

1992年5月8日より6月12日まで、AMDA（アジア医師連絡協議会）より派遣され、バングラデッシュのミャンマー難民キャンプで活動してきた。4月10日入国した第1次医療隊のあとをうけ、プロジェクトの円滑な遂行を図るためである。

個人的には、2年前タイのミャンマー国境を訪ね難民キャンプで少数民族の人や学生たちと会ったことがあり、もう一度ミャンマー問題を見つめなおし、彼らのためになにかできることはないかと思ったからである。

## 2. 概要

ミャンマーは国土面積68万平方km（日本の約1.8倍）、人口は約4000万人の国である。民族は約3分の2がミャンマー（狭義のビルマ族）で、ほかは少数民族である。宗教は約90%が仏教で、キリスト教、イスラム教はそれぞれ4-5%である。

1962年以来軍事独裁政権下にあり、国民（とくに少数民族）は相当ひどい抑圧を受けてきた。1988年反体制運動が激しくなる中、犠牲者も多くでる。1990年5月総選挙が実施され、国民民主連盟（NLD）が圧勝した。その後政府は政権委譲を拒否し、現在にいたっている。

ロヒンジャー族はベンガル地方出身の移民で、宗教はイスラム教である。今回の問題には、少数民族と宗教という二重の意味の差別、迫害があったものと思われる。

## 3. 現状

92年2月から急増したミャンマー難民（ロヒンジャー族）は、6月7日には26万8134人に達し、この時点でも一日難民流入数は約200人を数えた。

キャンプは16箇所あり、コックスバザール～テクナフをむすぶ幹線道路添い約60kmの間に散在している。わたしが離れる時点で、9万33人にはshelterがなく、木の葉やビニールでおおっただけの小屋にすんでいた。新しいキャンプでは便所や井戸も不十分で、雨季に備えた流水溝づくりも遅れていた。

各キャンプには政府から派遣された役人が勤めるoffice、保健省管轄の診療所、3～4のNGOがあり共同して救援にあたっている。また治安のため軍人が常駐しており、最近増員された模様である。

当初5月15日から始まる予定だった難民帰還は中止となり、その後の両国間の交渉は難航している。難民たちも彼らの人権と自由が確保されないかぎり戻らないといっている。ので、当分の間この問題はつづくものと思われる。

## 4. 健康状態

今年は雨季が遅れており、わたしがいる間は連日暑い日が続いていた。このため、恐れていた重大な伝染病が流行するような事態はさけられていた。

全体として、後述するように貧血、皮膚病、栄養不良症、下痢性疾患が多くみられた。また腹部が膨満した子どもが半分以上もいて、寄生虫問題の大きさを思わせた。頸部のリンパ節が腫大した子どもも時折みられた。

死因としては、これも後述するように栄養不良症、下痢性疾患、呼吸器感染症によるものが多く、複雑にからんでいると思われた。

各診療所では一日200～400人の外来患者を診ているが、今後雨季が本格化すると現状では相当数の死者がでる可能性があると思われる。



## 5. 我々の活動

現地では、AMDAバングラデッシュのDr 1人、コーディネーター1人、ヘルスワーカー3人（新たに2人雇用した）にくわえ、我々日本人医師も協力し総勢6~7人のチームで活動した。これにより寄生虫駆除に加え、衛生教育のプログラムも充実させることが可能となった。

寄生虫駆除は駆虫薬（levamisol 2.5mg/kg）にliquid paraffinを併用するもので、一回投与とした。その場でかならず飲ませるようにした。

衛生教育のほうは、駆虫薬投与前に寄生虫の生活史、水、トイレについて大型の絵を使いながら簡単にlectureをするという方式をとった。

第一次医療隊が4月25日よりはじめたDhoapalongキャンプ（人口17380人）におけるプロジェクトは5月30日完了した。6ヵ月から12才までのこども5367人をカバーした。6月2日よりDechuapalong 1（人口4983人）にて活動を再開したが、資金、教育効果などを検討し今度は家族全員を対象とすることにした。8日までに診たのは846人である。

この間他の疾病に気付いた際は、近くの診療所に紹介した。

また各種のミーティングにも積極的に参加し、報告と提言をおこなった。

## 6. 活動の評価

### 1) 寄生虫駆除

駆虫薬投与後8-9日目に、254人のこどもを対象に調査を実施した。寄生虫が便中に確認されたものは146人、57.5%であった。寄生虫がでてても気が付かなかったり、親が確認し損なったりする場合もありうるので、実際にはもう少し高いと思われる。

また駆虫薬による副作用は認められなかった。

### 2) 衛生教育

難民50人に衛生教育前後で聞き取り調査をした。その結果、水やトイレにかんするポイントはだいたい理解できたようであったが、寄生虫の生活史のほうは少々難しいようであった。

## 7. 現在の問題点

1) 難民の帰還のめどがたっていないので、どの段階で再評価しいつまでプロジェクトを続けるかが難しい

2) バングラデッシュ、日本ともDrの確保が容易ではない

3) 衛生教育の方法、内容とももう少し工夫が必要である

4) 対外活動、とくにマスコミにどうアプローチしていくか、ここしばらくミャンマー難民問題はほとんど忘れ去られたかの感さえある

## 8. 感想

国際協力の分野に関心を持って以来ずいぶん時間がかかった。やっとここまで来たかという感じである。

現地ですぐ感じたのは、思っていたとうりひどいということである。日本でよく使うゴミ袋のビニールでおおただけの小屋が見渡すかぎりつずいているのを見るとさすがにうなってしまった。トイレや井戸がまったくくないような地区もあるのである。

こどもたちの栄養状態は一般に悪く、アフリカの飢餓の際見られた極度の栄養不良状態のこどもも見られ、暗澹たる気持ちになった。

# カンボジア難民帰国で 転機を迎えた 日本のNGO

途上国援助で大きな役割を期待される日本の非政府組織(NGO)が、転機を迎えている。「和製NGO」はカンボジア難民が流入したタイを活動のスタート地点としたところが多い。それが、カンボジア和平などを機にベトナム、ラオス、カンボジアのインドシナ三国に重点を移すなど、活動範囲を広げざるを得なくなっている。一方で、資金集めのため、欧米のNGOが相次いで日本に進出、民間の寄付金や政府開発援助(ODA)をめぐるジャパンマネーの争奪戦が激化しつつある。(辻 陽明)



バンコクのスラムは約1600カ所、約150万人が住むといわれる  
ニクロントイで

約六万人が暮らすバンコク最大のスラム「フロントイ」。パトラックの密集する湿地は果物の皮のまじったゴミが浮かび、悪臭を放っている。  
スラムの入り口には欧米、日、タイの九団体の診療所や保育園が集中し、「NGOストリート」と呼ばれる。ここは図書館と職

## インドシナへ活動拡大

寮所や保育園が集中し、「NGOストリート」と呼ばれる。ここは図書館と職

業訓練所を運営する曹洞宗ボランティア会(SVA)は今年、建物二階の(バンコク事務所)を「アジア地域事務所」に改めた。SVAはカンボジア難民がタイに流出した一九七九年に発足。援助対象は難民キャンプから農村、スラムに広げながらも、地域はタイが中心だった。ところが、難民がカンボジアやラオスに戻るのに伴い、両国に日本人スタッフを置いてきた。

派遣援助型NGOでは最も有力といわれる日本国際ボランティアセンター(JVC)も、SVAと同時期にタイから活動を始めたが、いまはインドシナ三国にアジアの重点を移している。「周辺に援助を必要とする国があるのに、活動しやすいついタイに安穩としていられない」。カンボジアで難民帰還事業に加わっているJVCの谷山博史氏はこう説明した。

タイ経済は日本企業が直戦中の欧州に米國から郵便小包を送る運動から出発し、これに対して、第二次大戦中の欧州に米國から郵便小包を送る運動から出発し、

欧州の被災孤児の救済から始まった英国路祥の多国籍NGO「セーブ・ザ・チルドレン」も八八年、大阪青年会議所を受け皿として日本に進出、今年四月には東京にも事務所を構えた。英国組織の総裁であるアン王女の支持を受けていることを新聞広告などで強調しながら、個人や企業の寄付

性を強調、働きかけ次第で寄付も増え、ODAも得られると考えているようだ。日本のODAに対する途上国のNGOの期待も大きい。「タイ・ボランティア・サービス」のデーシュ・ブムカチャー事務局長は、「ODAが道路やダムではなく、国民の大部分を占める農村の住民に届くように、日本のNGOに協力を求めたい」と訴えている。

接投資を集中させた結果、この数年で急成長した。欧米のNGOの中には「タイは豊かになった」として、スラムでの援助を引き揚げた例が目立つという。「転換期なのは活動の場所だけではない。欧米の有力NGOが日本の資金を狙って猛烈に働きかけ、八七年に。現状では、資金や人材が不足している日本のNGOが生き残るのは難しい。」とさしている。

た「CARE(ケア)」の組織は出資額十一カ国、援助対象四十五カ国にのぼり、国際スタッフ約三百五十人、現地スタッフ約七千人を抱える。資金はケアUSAが米國際開発庁から得ているODAが主力。これが伸び悩んでいることから、八七年につくったケア・ジャパンで日本のODA資金獲得をめ

## 資金集めは 欧米と競合

を募っている。米國に本部を置く「フォスター・プラン」は日本進出が八四年と比較的早く、いまは日本で約四万三千人の「親」を擁し、年間約二十五億円を集めている。このほか、アフリカを主に対象とする英国路祥の「OXFAM(オックスファ



## ブータン難民緊急救援医療プロジェクト

大野京子、藤井美紀子

### <最近の動き>

現在、4ヶ所のキャンプ地に難民総数約6万5000人が住んでいる。UNHCRが1992年1月～4月25日まで駐在し25万ドルの援助を行った。その後ルーテル教会主催の“Rutherford World”とネパールとブータンのWomens Development Association（ナリ、ビカース、サンガとブータン、マイラ、サンガ）が活動している。

### <難民の背景>

ブータン、ネパールそしてインドは昔から国境はあって無きに等しいというところがあり往來自由な地域であった。ブータン国民はもともと一生懸命働く…という性質ではないこともあってネパールの知識階級の人々がブータンへ移り住んで行っていた。1991年ネパール国内にインド人出稼ぎ者が急増した。ネパール人の失職などを憂慮したネパール政府が「ネパール人にはすべてアイデンティティカードを発行する。これなしでは就職活動等出来ない…という方法をとってはどうか？」という計画を立案した。実現はしていない。おりしもブータン国内では王制に対する民主主義運動が問題となっていた。その指導者がネパール人であることを口実にブータン政府はネパール人に対し教育・宗教・仕事・言語上の迫害を行い、ネパールへと追い帰したり国外へ締め出すような方策を取っていた。このためウワサが広がってブータンに住んでいたネパール人達がパニックのようになってどんどん戻ってきたという。そして住宅問題も解決されないうちにネパールのコイララ首相が選挙公約でブータン難民に住居を与えると演説した。このためまた一挙に難民が増え現在に至っているという。故に今回の難民はネパールオリジン難民であるとの事である。

この問題については、ネパール・ブータン・インド間（ブータンは現在インド政府下にある）で話し合いがしばしば持たれてはいるが、ブータンは全く応じていない。ネパールの援助要請に対しインドのラオ首相は一応肯定的な返事を見せている。しかしインドは他に中国との国境問題を抱えているだけにこの問題にはかかわりたくないという背景がある。そのため実質的な政府間での解決策は取られていない。

またネパールの新聞はブータンの民主主義を推進させるべきだとこの問題を取り上げている。2日に1度程度関連ニュースを載せている。しかし、国民のほとんどは貧しく他者への援助まではとても心が回る余裕もないためか関心はとても低い。

### <カンカイキャンプの現状>

カンカイ川付近では、雨期の洪水を避けるために少し離れた美しい草地在がパーマメントの土地として難民達に与えられている。キャンプはバザールもあり平和的で落ちついている。家の建築材料などが多く運びこまれ家の建

築が始まっていた。治療所には軍医が駐在しており移動用のヘリコプターを見た。一般的にカンカイ川付近の難民達にもし重病人が出た場合は車で約30分程のピンタモールの病院へ運んで治療を行っている。今は特に女性の診療のために女医の派遣が求められている。ピンタモールにはきれいな下宿先もあるとの事である。ぜひネパールAMD Aから女医さんの派遣が望まれる。ということです。

最後になりましたがお世話になりました関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。

1992年(平成4年) 7月10日

乗 宣 言

## ネパール難民救おう

### AMD A 同国の留学生医師派遣

医師不足で十分な医療を受けられないネパールの難民を救おうと、神戸大学に留学して小児医学を研究しているネパール人医師ラメスアラ・ポカレルさん

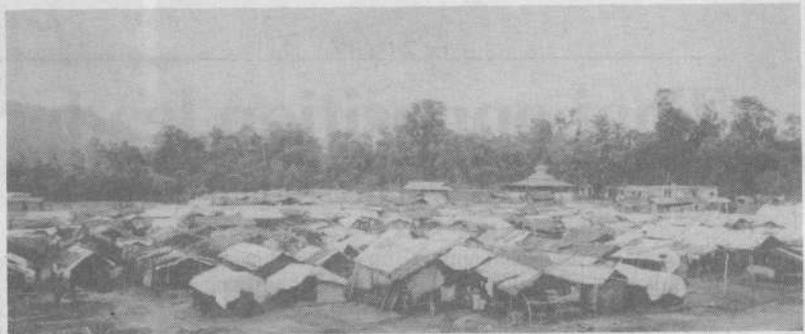
AMD A(アジア医師連絡協議会)の一員で、同会が派

遣する。

AMD Aによると、ネパールの東にあるプータンには約三十五万人のネパール系住民がいるが、一九八九年に起きたネパールの民主



左が大野京子氏、右が藤井美紀子氏



難民キャンプ風景



ダマック市

化運動に伴い、波及を恐れ、プータン政府が彼らに厳しい施策をとり始めた。このためネパールへ脱出する住民が続出、東部の町ジャバにある難民キャンプでは五万人以上が井戸水汚染など悪い衛生状態の中で暮らし、マラリアなどで死亡する人もでてくる。医師も現地の人三しかで薬品も不足しているという。

ポカレルさんはAMD Aネパール支部の医師三人と合流してジャバに野外診療所を開き、治療にあたるほか、関連や民間の援助機関と情報交換、政府にも働きかけて救援体制を整える。二十八日に日本へ帰る。AMD Aは体制が整うまで、順次に医師、看護婦を派遣する。

打ち合わせのためAMD A事務局の岡山市の菅波内科医院を訪れたポカレルさんは「一人間らしい生活をおくれるよう力いっぱい働いて、将来、経験を生かしたい」と力を込めて話している。AMD Aの山本秀樹事務局長は「現地に詳しく入脈もあり、難民の大きな力になる」と期待している。

AMD Aは体制が整うまで、順次に医師、看護婦を派遣する。

AMD Aは体制が整うまで、順次に医師、看護婦を派遣する。

AMD Aは体制が整うまで、順次に医師、看護婦を派遣する。

AMD Aは体制が整うまで、順次に医師、看護婦を派遣する。

## 東北タイ農村開発計画支援プロジェクト(2)

タイ国よりのチャムロン氏を団長とする農業研修団の予定は下記のごとくです。御協力いただいています関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。

(目的)

- 1) 農業研修
- 2) 国際交流

(日程)

7月20日から8月2日までの2週間

(研修先)

- 1) 高松農協
- 2) 加茂川町
- 3) 山本農園

(訪問先)

岡山県庁／岡山県国際交流協会／岡山市庁／広島県庁／東京都庁  
大阪府庁／黒住教／国泰寺／比叡山／岡山青年会議所／日本青年会議所  
アジア文化会館

(講演)

「タイの心」於岡山県総合福祉会館

(人数)

12名+3名新聞記者(バンコックポスト/ネーション/ )

6/21/P2 J.T.

## Thai opposition leader to visit

### Farm methods will be studied during two-week stay

OKAYAMA (Kyodo) Thai opposition leader Chamlong Srimuang, who led a prodemocracy campaign against the military regime in May, will pay a two-week visit to Japan next month to receive training in organic agricultural methods and study the nation's agricultural cooperatives, a citizen's group has announced.

The former Bangkok governor, invited by the Association of Medical Doctors for Asia, will receive instruction at the Takamatsu Agricultural Cooperative here, a spokesman for the group said.

Members of the AMDA, who became acquainted with Chamlong through their volunteer activities in Thailand, offered last November to set

up a special series of agricultural training programs in Japan.

Shigeru Suganami, a doctor who heads the AMDA, said he received a letter Friday informing him that Chamlong will come to Okayama next month.

Chamlong has requested that Suganami train a number of Thai agricultural experts, who will be sent to villages in northeastern Thailand, an AMDA member said.

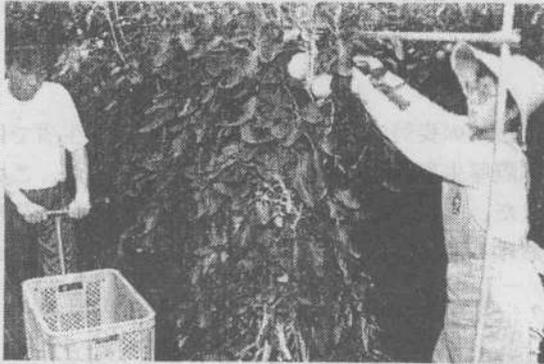
Several Thai farmers, teachers from agricultural schools and doctors will accompany Chamlong. For part of their visit, they will stay at the homes of the association's and cooperative's members, the AMDA source said.

Chamlong went to the U.S. to be trained as an army officer after graduating from the Royal Military Academy of Thailand.

In 1985, he successfully ran in the Bangkok gubernatorial election, calling for realization of "a costless election and uncorrupt national politics."

By leading the May anti-government campaign, he took the initiative in eventually toppling the Suchinda government.

"I hope our agricultural knowhow will contribute to raising the standard of agriculture in Thailand," Suganami said. "I want to deepen understanding with the Thai people through agricultural exchanges."



## タイのチャムロン氏一行

# 20日岡山入り



チャムロン氏

タイの民主化リーダーのチャムロン・スイムアン氏が二十日、夫人や農業指導者らを伴い、十二人で岡山市入りする。アジア諸国の医師らでつくる「アジア医師連絡協議会」(本部・岡山市、菅波茂代表)が招いたもので、約十日間にわたり、岡山市高松農協(藤井虎雄組合長、組合員千六百二人)の農家などにホームステイしながら、有機農法を視察する。一行を迎え入れる組合員らは「ありのままの農家の姿を通じて、日本農業の心を伝えたい」と準備を進めている。

米白のきつかけとなったのは、アジア医師連絡協議会が東北タイで進めている「農村開発支援プロジェクト」の一環。厳しい干ばつと塩分を含んだ土壌のため深刻な貧困にさらされている農村。岡山市平山部に、低コストの有機農法「さん(音)は脱サラ」を根づかせ、医師を派遣し、転身した。キャーで生活向上を目指す計画。ス、プロコクロー

## 有機農法を学ぶ

### 農家などでホームステイ

バンコクに流入した農民たちのスラム化問題に取り組んでいた当時知事のチャムロン氏が共鳴し、十数年前からトマトやキュウリなどの有機農法に取り組んでいる高松農協を訪れることになったという。

有機農法は、化学肥料や農薬を使わず、たい肥やタネかすなど有機物を利用する。自然が織りなす生態系や地下水などの環境を保護し、タイの農家に必要なものがきつと見えてくるはず。藤井理事長も「有機農法は化学物質に頼らず手塩にかけて命をかける農業。それを重んじるが創意工夫を積み重ねて精進させたいシステムをくみ取って、タイの農家のために役立ててほしい」と期待している。

タイ民主化運動のリーダーで、五月に起きたスチンダ首相退陣運動で逮捕されたバンコク知事、チャムロン氏をリーダーとする農業研修団十二人が二十日、来日する。一行はホームステイしながら、有機農法で全国的に知られる岡山市の岡山市高松農協(藤井虎雄組合長)で今月末まで、土壌改良法などについて学ぶ。また、二十三日午後六時から、岡市石岡町の泉総合福祉会館で、チャムロン



チャムロン氏

氏(音)の農業研修団を受け入れるのは、ミヤンマー難民救済プロジェクトなど活発な活動を続けるNGO(非政府組織)の「アジア医師連絡協議会」(AMDA)。(本部・岡山市、菅波茂代表)。チャムロン氏はバンコク知事の間から「タイの発展は農業の振興から」との信念をもち、五月にタイで起きたスチンダ首相退陣運動で逮捕されたバンコク知事、チャムロン氏をリーダーとする農業研修団十二人が二十日、来日する。一行はホームステイしながら、有機農法で全国的に知られる岡山市の岡山市高松農協(藤井虎雄組合長)で今月末まで、土壌改良法などについて学ぶ。また、二十三日午後六時から、岡市石岡町の泉総合福祉会館で、チャムロン

## 日本経済新聞 1992年(平成4年)7月11日

### 前バンコク知事が 23日岡山で講演会

20日、市内を農業視察



五月にタイで起きたスチンダ首相退陣運動で民主化運動を指導した、前バンコク知事チャムロン氏(音)が岡山市内で講演することが決まった。チャムロン氏は二十日に来日、岡山市内で農業視察することになっている。講演会を主催する岡山県国際交流協会は、チャムロン氏一行の来日を歓迎し、岡山県国際交流協会(岡山県厚生町三ノ一五、080-820-2301)へ、五月にタイで起きたスチンダ首相退陣運動で民主化運動を指導した、前バンコク知事チャムロン氏(音)が岡山市内で講演することが決まった。チャムロン氏は二十日に来日、岡山市内で農業視察することになっている。講演会を主催する岡山県国際交流協会は、チャムロン氏一行の来日を歓迎し、岡山県国際交流協会(岡山県厚生町三ノ一五、080-820-2301)へ、

国際厚生事業団・途上国派遣専門家 岡山県山陽町 奥田 朗

「金は出すが汗はかかない」という日本の途上国援助の姿勢に対する批判に応じて、厚生省では開発途上国派遣専門家養成研修を、平成元年度から国際厚生事業団に委託して実施しているが、この研修の第1回生として参加し、その間の海外研修、また、その後の活動によりタイ農村部の医薬品事情、とくに医療施設へのアプローチの困難な地域における薬生協について些か知るところがあったので報告する。

タイにおける医薬品は保健省制定/製造の250種あまりのエッセンシャルドラッグが主体であり国立関係の医療機関は殆どこれに依存している。勿論、輸入医薬品として世界中から種々の製品が入っているが高価である為、一部の私立病院等で採用されているにすぎない。とくに、農村部においては医療機関に辿りつくまでが大変な地域が多く、使用する薬の選択以前の状況にある。タイ政府は地域病院、地区病院、さらにその下にヘルスセンターを設けて地方の医療の充実を図っているが農村部においてはこれら医療機関に容易にアプローチ出来るのはごく条件の良い一部の地域に限られている。このような状況の中で、タイ農村部におけるPHC活動で実情をふまえて最も成功したケースと評価されているのがVHV、VHC (Village Health Volunteer, Village Health Communicator) の組織化とこれに付随する薬生協である。

薬生協は、近くに医療施設がなく正規の医薬品の入手が困難な地域に、安全でかつ安価な日常的に必要な薬を確保するための一種の生活協同組合で、1982年以来、政府の後援で推進されている。上記のVHV、VHCが中心となりまず生協を設立し1株5-20パーツで出資を呼び掛ける。村の全戸数の70%が加入すると政府から700パーツの援助があり、合わせて約2000パーツで決められた約70種類の必須医薬品の中から実情に応じた20種程度を購入し、村内の雑貨店等を借りて定数保管する(デポ)。必要な場合村人はVHVに相談し、VHVは状況を判断し服用する医薬品の種類と付随する情報を伝達する。患者は指示された医薬品をデポで購入・服用する(一日分5-20円程度)というシステムになっている。そして以後の補填薬は政府機関から正価の70%で購入することが出来るのでその差額は生協の運転資金とすることが出来る。タイの人たちの熱心さと識字率の高さがこのシステムを支え、発展させていると思われるが1990年現在で約80%の村にこの生協が設立・自主運営されている。また一部の村においてはデポまでのアプローチさえも大変な家族の為に「富山の置くすり」方式も開発され鎮痛剤、ORS、かゆみ止め、など数種類がセットされたファミリーキットも用意されている。

勿論、約5週間の医学教育を受けているとはいえVHVの判断ミスの問題とか、医薬品の保管状況等に問題が無いわけではないが、このシステムに依り村人に安心と協調の輪を広げていることに間違いは無い。

本年も上記の途上国派遣専門家研修が11月から実施されますが興味のあるかたは国際厚生事業団(03-3225-6591)にお問い合わせください。小林米幸先生も講師の一人としてお願いしています。募集締切は8月28日です。



村の集会所での討論会・状況聴取。

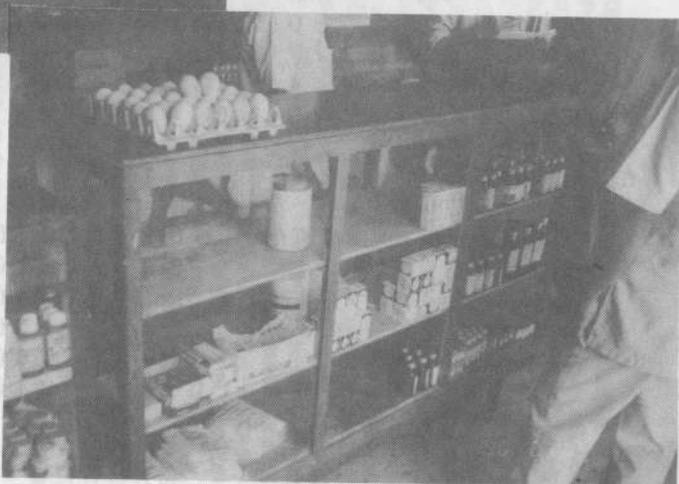
8	0	...	...
7	0	...	...
6	0	...	...
5	0	...	...
4	1	...	...
3	3	...	...
2	8	...	...
1	11	...	...



手流し水洗便所も普及中。



蚊帳とミシンと白黒テレビの文化生活。



卵も同居する薬生協のデポ。

# AMDA 国際医療情報センター 便り

154 東京都世田谷区新町2-7-1 横尾ビル201

Tel 03(3706)4243, 03(3706)7574, FAX 03(3706)4420

センター電話相談 (1992年4月1日～1992年6月30日)

## 1. 外国人からの相談件数

	4月	5月	6月	計	1991年4月17日(開設日)からの累計
件数	103	95	119	317	1421

## 2. 外国人相談者国籍別統計 (不明を除き64国)

国名	月件数	累計	日本	29	ニュージーランド	2	8
アメリカ	27	371	台湾	21	マレーシア	1	6
中国	14	157	韓国	22	タイ・イタリア・ポルトガル	16	16
フィリピン	7	94	イラン・ドイツ	28	シンガポール・ミャンマー	4	16
カナダ	7	75	ナイジェリア	0	コロンビア	0	6
ブラジル	9	69	ガーナ	0	オランダ・スイス	0	8
オーストラリア	6	60	インド	13	フィンランド	0	4
ペルー	9	58	アルゼンチン	0	メキシコ・オーストリア	0	6
ハンガリー・イタ	0	43	フランス	0	ロシア・香港・ベルギー	2	9
パキスタン	0	42	アイルランド	11	カメルーン・スイーデン	1	5
イギリス	5	44	イスラエル	11	他21カ国	2	23
スリランカ	1	32	ネパール	0	不明	9	69
			スペイン	8	合計	119	1421

## 3. 地域別内訳

	6月	累計		6月	累計
東アジア	18	228 (16.0%)	中南米	19	161 (11.3%)
東南アジア	16	161 (11.3%)	オセアニア	8	69 (4.9%)
南アジア	2	106 (7.5%)	アフリカ	1	37 (2.6%)
北米	34	446 (31.4%)	中近東	2	27 (1.9%)
西欧	10	113 (8.0%)			
東欧	0	4 (0.3%)			
不明	9	69 (4.9%)			
合計	119	1421 (100%)			

## 4. 外国人相談者居住地域

	6月	累計		6月	累計
東京	62	789 (55.5%)	他県	11	145 (10.2%)
神奈川	20	177 (12.5%)	不明	10	117 (8.2%)
埼玉	9	114 (8.0%)	合計	119	1421 (100%)
千葉	7	79 (5.6%)			

## 5. 相談内容

	6月	累計
(1)言葉の分かる医師の紹介	106	1097 (77.2%)
(2)医療制度	2	127 (8.9%)
(3)金銭問題・トラブル相談	2	114 (8.0%)
(4)病気の説明	5	13 (0.9%)
(5)その他	4	70 (4.9%)
合計	119	1421 (100%)

6. 他機関からの相談件数（機関別）

(1)病院	10	(5)教会	2
(2)公的機関（大使館・自治体等）	7	(6)企業	4
(3)マスメディア	10	(7)そのほか	3
(4)NGO	6	合計	42

7. 他機関からの相談・問い合わせ内容（複数回答）

(1)業務内容問い合わせ	16	(5)保険について	1
(2)医療機関紹介	8	(6)問診表	3
(3)医療費について	7	(7)そのほか	5
(4)通訳・言葉	8		

1. 6月20日（土）、「11か国語診察補助表」販売開始しました。昨年の夏から、計画を練り始め、ようやく完成、販売へと漕ぎつけました。毎日、読売、朝日新聞で紹介されたため、電話が殺到しています。言語は、韓国語、中国語、タガログ語、ベトナム語、カンボジア語、ラオス語、タイ語、ベルンチャ語、英語、スペイン語、ポルトガル語の11か国語です。ご希望の方はセンターまでお電話（03-3706-4243）でお申し込みください。11か国語1セットで¥5000です。

2. センター独自のニュースレター発行。

今までAMDAニュースレターの紙面で活動報告を行ってききましたが、AMDAのメンバー、運営協力者の方々にしか目に触れる機会がありませんでした。そこで、それ以外の方々にも広くセンターの活動に付いて知っていただくため、センター独自のニュースレターを発行することにしました。

その月の相談件数だけでなく、むずかしい相談から学んだこと、又、いろいろな国の文化、医療事情など、盛りだくさんでお届けする予定です。

隔月発行の予定です。センターでは年間購読者を募集しています。

年間¥3000です。ご希望の方は、センターまでお電話でお申し込みください。

家庭とくらし 誌売新聞 7月30日（購三種郵便物認可）

在日外国人患者に強い味方

# 11か国語の問診表完成



紹介しほしい」というも  
が、「言葉のわかる医師を  
カンボジア語、ベルンチャ  
語（同四）の11か国語に  
に六十四か国、七百五十  
に達した。その七六%まで  
が、言葉のわかる医師を  
紹介しほしい」というも

作成したのは、在日外国  
人向けに電話による医療相  
談を受けているAMDAと  
医療機関センター（東京  
都世田谷区）。アジアの医  
療問題を考える医師や看護  
婦らの市民団体「アジア医  
療の現場での悩みを解消  
師連絡協議会日本支部（岩  
波茂代表、二千人）が運営  
している。センターは、昨年四月に  
開かれた「英語（毎日）、  
中国語（水、土曜日）、ス  
ペイン語（月、火、水、木）  
ポルトガル語（水）の通訳  
が、電話で在日外国人にこ  
なえている。

## 市民団体 一年の成果

在日外国人が日本の医療機関にかかると、言葉の壁で医師、患者とも困ることが多い。そんな障害を少しでも取り除こうと、十一か国語の問診表（診察補助表）が市民団体の手で出来上がった。問診表の内容は、医師が医療機関と患者がお互いに言葉が通じなくても、必要最小限の診療と治療が受けられるように工夫されている。

在日フィリピン人の患者に  
タガログ語の問診表を使っ  
て症状を聞く医師（東京都  
町田市内の病院で）

4 (3)。

センターは、医療機関だ  
けでなく、ホテルや日本語  
学校、企業など、在日外国  
人の多い所での活用を呼びか  
けています。十一か国語一セ  
ットで五千円送料込み。  
問い合わせは同センター  
（電話03-3706-4243）。

センターは、昨年四月に開かれた「英語（毎日）、中国語（水、土曜日）、スペイン語（月、火、水、木）ポルトガル語（水）の通訳が、電話で在日外国人にこなえている。センターは、昨年四月に開かれた「英語（毎日）、中国語（水、土曜日）、スペイン語（月、火、水、木）ポルトガル語（水）の通訳が、電話で在日外国人にこなえている。

センター所長で医師の小林幸志さんは、「ほかにも外国語に支問診表があるが、患者の言いつを医師に伝えるだけのものでは、外国語が話せない医師から患者への情報伝達はなかった。この問診表で、かなりの壁が解消されると思う」と話している。

# 「異文化」に医療の壁厚く

日本に滞在する外国人が増えるに伴い、医療現場で様々なトラブルが起きている。言葉や風俗、習慣の違いからくる異文化摩擦、保険に入っていない不法就労者や短期滞在者が病気をやがをしたときに起きる医療費をめぐる問題……。こうした外圧は、これまでの日本型医療に見直しと対応を迫っている。

## 外国人患者とトラブル

摩擦 日本人の医師と外国人の患者との間でこんな摩擦が起きているのか。

妊娠して入院した中国や台湾の女性は、あまり生野菜を食べないという。母国では妊娠中、おなかを冷やすのはよくないと、冷たいものは控えるからた。

欧米人は薬に敏感で、種類や副作用を詳しく聞く。日本の「薬漬け」を嫌がって、指示通り服用しない人も。とくに抗生物質は使いたがらない。母国のかかりつけ医師に、ファクスで「飲んでいいか」と問い合わせる米国人も多い。

入院患者の場合、週一回程度ある順番制の入浴を「不潔」と嫌がり、毎日シャワーを使いたがる。イスラエルの女性は、男性医師の前で肌を見せようとしていない。

自宅に「台湾語と北京語による」の電話、関西で生命線」を設け、様々な相談に応じている台湾出身の伊藤みどりさん(52)大阪

る。だが、総務庁の昨年の調査では、医療機関を利用した外国人のうち約五三%が加入していなかった。神戸市は一九九〇年から



言葉通じず  
習慣も違い  
健保未加入

フレットを留学生に配布。大阪府は、外国語が通じる病歴名や症状の伝え方を日本語とハンブル、中国語で書いた冊子を作った。

「医療制度」の相対化。医療制度をめぐる神戸市でトラブルが起きている。治療費約百六十万円を支払えないスリランカ人留学生に対して、神戸市が生活保護法に基づく医療扶助

を適用、全額支給した。しかし、国は「適用は定住外国人に限られる」と治療費の四分の三に当たる国庫負担分の支払いを拒否した。現在、日本に滞在する外国人は百万人に達している。さらには問題なのは、国保の加入資格がない不法就労者、民間の保険に入るか自分で全額医療費を負担する

—朝日(92.6.14朝)夕—

はその時代人の精神に影響を与うるものなり ディズレリ §

## 岩手県便り(3)

岩井くに先生

6月に入り、ここ陸前高田市広田町では地域の人々待望のウニの開口(漁の解禁)となりました。今年是不漁といわれながらも、あちこちから新鮮なウニが届けられ、ごはんが一段とおいしい私です。

6月6、7日には岩手医科大学で「医大祭」が開催され、西塚君らが中心となって「インフォームド・コンセント」をテーマにシンポジウムが行われました。その内容は盛岡タイムズ、岩手日報両紙に大きく取り上げられ、県民の関心の強さがうかがわれました。

岩手国際交流協会の医療機関へのアンケートは予想をはるかに越える回答が寄せられ(欄外にまで経験やご意見を書いてくださった熱心な先生がたくさんいらっしゃいました)、無保険者が多いなど岩手県でも外国人医療をめぐるさまざまな問題が浮き彫りになりました。これはほぼ集計が終わり、「いわて国際交流」7月号に特集するとともに、9月に長野県松本市で開催される日本国際保険医療学会総会で発表することになりました。現在、岩手県国際交流協会では救急隊へのアンケートを行っています。

バングラデシュ日本友好病院設立に向けて、岩手県立宮古病院の新築移転に伴い、廃棄予定の医療器械を提供して下さることになり、引越し準備で忙しい中リストを頂き(CTまでありました)、バングラデシュで組立・修理の可否を照会しましたが、なかなか現実には厳しく、ある日、落胆して広田診療所の倉庫へ入ったところ、燈台もと暗しとはこのことで、戸棚の中に手術器械があるわあるわ... (以前はここは病院だったのです) さっそく市役所と交渉して許可をいただき、注射器、カスト、手術器械などダンボール6箱へ詰め込んでナイーム先生に選り分けをまかせて送りました。

結局、電圧の違いなどでCTなどは使用できないようです。この経験を通して、援助で「もの」を送るのも難しいものだ実感しています。

### 郵政省ボランティア貯金より3090万円AMDAに

去る6月27日岡山の郵便貯金会館に於いて、1992年度ボランティア貯金配分式が行われた。昨年度ボランティア貯金からの700万円強で始められたネパール、ビシュヌ村での地域医療プロジェクトの成功が高く評価され、今年は一挙に4倍強の配分となったものである。配分式には山本事務局長、津曲事務局長、ボカレルAMDAネパール代表が出席、中でもボカレル氏の挨拶はネパールの医療事情に触れ、ボランティア貯金が現地で如何に役立っているかを具体的に説明したものであり、大変に好評をえた。今年度の配分金はバングラデッシュ国内ミャンマー難民プロジェクト、カンボジア帰還難民プロジェクト、ネパール地域医療プロジェクトに使われる予定である。

1992年(平成4年)7月5日(日)

言 堂 業 斤 尾 科

### 平成4年 郵政事業表彰

備前西連絡会



## AMDAに3090万円

ボランティア貯金 今年度の配分

郵政省の寄付金制度「国療所の開設などに使われるボランティア貯金」の平た。今回の寄付金もネパール成四年度の配分先に、県内ルでの事業に使われるほか、新たにカンボジア、バングラデッシュで、難民の診療生面の援助活動を進めているアジア医師連絡協議会や薬・医療器材購入に使う。岡山市橋津、首波茂代表、通知式では、岡山、玉野AMDAが選ばれ、三十九万円が贈られることが決定。同市桑田町のメルパルクオカヤマで四日、通知式が行われた。

AMDAには昨年度も約七百万円が贈られ、医師、薬、医療設備が慢性的に不足しているネパールで日本人医師が行う巡回診療、診療士と話していた。

津曲医師は「去年の実績が認められ、今年も選ばれたい。寄付して下さったみなさんの気持ちを形にして現地に伝えま

# ナセナ

## 少ない企業・財団のNGO助成

### 企業と文化

「日本のジョブ・チャナ」の開設をめぐって、民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。

NGO(非営利組織)の活動が、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。

民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。

民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。



日本の国際交流と「成熟」への道  
—共に生きる倫理と知恵と作法をめぐって—  
三井物産国際財団の国際交流シンポジウム  
左から右へ、三井物産国際財団の代表者、三井物産国際財団の代表者、三井物産国際財団の代表者

民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。

民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。

民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。

民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。民間財団がNGO(非営利組織)の活動を支援する動きが、民間財団から出てきた。

## 【事務局便り】

### 1. ブータン難民救援

AMDA日本支部ではネパールにおけるブータン難民救援のための募金を開始いたしました。郵便振替口座「AMDAブータン難民」、口座番号：岡山6-3974 を開設するとともに、ブータン難民キャンプ医療救援プロジェクトに参加する日本人医師・その他の医療スタッフ・医学生らを募集することとなりました。

詳しい問い合わせは、AMDA事務局までお願いいたします。

### 2. 救援物資の寄付依頼

AMDAではこれから開始するカンボジアプロジェクト・ブータン難民プロジェクトの為の救援物資を集めています。医療機器、薬品、タイプライター、ワードプロセッサなど身の回りに不必要な物で、なにか現地で役に立ちそうな物があればご一報ください。

### 3. 岡山だより

岡山市では市民による国際協力の推進のためにシンポジウムを開催することとなりました。AMDAからも昨年のバングラデシュのサイクロンの救援事業、ミャンマー難民キャンプによる保健医療事業に従事しているAMDAバングラデシュのDr.sumana Barua氏がパネリストとして参加いたします。

岡山アイフェスティバルー国際協力シンポジウム「岡山発！地球貢献」

日時：11月7日（土） 場所：岡山市幸町西川アイプラザ

パネリスト：AMDAバングラデシュ Dr.Sumana Barua

NGO活動推進センター事務局長 伊藤道雄氏

地球人クラブ代表 土田美津子氏

### 4. 事務局の広報活動報告

6月21日：立正佼正会「国際緊急援助隊」セミナーにて  
ミャンマー難民・ブータン難民キャンプの医療事情報告  
山本、津曲、長谷川

6月27日：SHARE（国際保健市民の会）例会  
ミャンマー難民キャンプの実状報告  
長谷川

7月3日：NHKフレッシュ岡山  
ブータン難民キャンプの現状報告  
山本

15日：RSKラジオ、ナイスモーニング出演  
ブータン難民キャンプの現状報告  
山本

### 【AMDAカレンダー】

7月-8月：タイ国農業使節団来岡

8月：アジア医学生会議（マレーシア）

9月18-20日：国際保健医療学会（松本）

10月：AMDA International総会（韓国）

AMDA秋季例会（岡山：予定）

11月7日：岡山アイフェスティバル国際協力シンポジウム

12月：AMDA冬季例会（東京：予定）

### 【編集後記】

毎月、時の経つのは早いもので発送がすんだと思ったらもう次の号が待っています。ただ、毎月の記事の量も増えてきているのが喜びです。(Y)

事務局は、チャムロン氏の来日の件ででんでんこ舞です。(T)

## 執行部会及び例会案内

### 1) 秋期

10月24日-25日

岡山市：菅波内科医院

### 2) 冬期

12月12日-13日

東京都：早稲田奉仕苑

各種のプロジェクトも豊富になってきています。国際NGOとして更に発展するためにも多数の会員の方々の参加をお待ちしています。

# AMDA 国際医療情報センター

## 平成4年度運営協力者

(順不同敬称略)

以下の方々にご協力頂いています。有難うございます。

### 個人、団体

岩淵 千利／満江 (神奈川県)、永井 輝男、長島 隆久 (東京)  
色平 哲郎 (長野)、中山 れん太、カトリック東京教区インターナショナルデー委員会、松原 雄一

### 医療機関

青梅慶友病院、町谷原病院、河北総合病院、高岡クリニック、山田皮膚科  
医院 (東京)、小林国際クリニック (神奈川県)、福川内科クリニック (大阪府)  
ジャパングリーニククリニック (シンガポール/英国)、沖縄セントラル病院  
(沖縄県)

以上年間12万円

### 会社

(株)エーザイ、三共(株)、昭和メディカルサイエンス(株)、ファイザー製薬(株)、協和発  
酵工業(株)、田辺製薬(株)、富士コカコーラボトリング(株)、萬有製薬(株)、サンド  
薬品(株)、クラヤ薬品(株)、ファルマーマーケティングサーベイ研究所、三井物産、  
(有)都商会、グラクソ三共(株)、大鵬薬品工業(株)、(株)医泉、葉樹(株)

以上年間12万円

(株)TVC山本、大森薬品(株)、カネボウ(株) 年間5万円

大塚製薬(株)、興和新薬(株)、日本新薬(株) 年間3万円

永生病院、アイシーアイファーマ(株) 年間2万円

国際婦人福祉協会 パーソナルコンピューター及びプリンター寄贈

なお、当センターの事業に関して、庭野平和財団から助成を受けています。